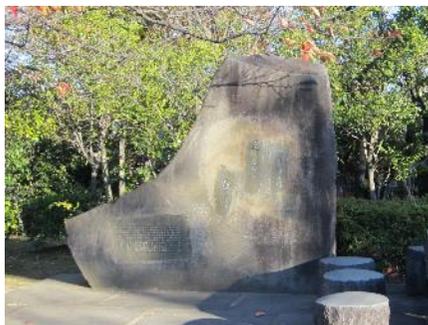


◆◆◆ 飯田蛇笏文学碑・飯田龍太文学碑について ◆◆◆



飯田 蛇笏

いいだ だこつ 1885～1962

山梨県笛吹市境川町生まれ。俳人。早稲田大学在学中、高浜虚子に認められ頭角を現す。帰郷後、大正初年代の「ホトトギス」誌上で活躍、1915（大正4）年創刊の俳誌「キララ」（後「雲母」と改名）を主宰。大正・昭和の俳壇の第一線で活躍した。句集に『山廬集』『靈芝』など。



飯田 龍太

いいだ りゅうた 1920～2007

山梨県笛吹市境川町生まれ。俳人。飯田蛇笏の四男。國學院大學在学中より「雲母」の句会に参加。戦中、帰郷して終戦を迎えた。戦後俳壇の伝統派の旗手として登場し、昭和・平成の俳句界を牽引した。蛇笏没後に「雲母」を継承・主宰。句集に『百戸の谿』『忘音』など。

飯田蛇笏文学碑 「芋の露連山影を正うす(春)」

1914（大正3）年作 句集『山廬集』所収

設立：1963（昭和38）年10月6日

飯田蛇笏文学碑建設委員会（委員長 野口二郎）が甲府市内の舞鶴城公園（甲府城趾）に設置。1992（平成4）年、芸術の森公園に移設。

設計：明石 信道（山梨県庁本館や山梨県民会館の設計を内藤多仲と担当）

施工：片山石材株式会社 刻字は同社の石工・望月徳太郎

石：山梨県甲府市の片山から採取した安山岩。

筆跡：飯田蛇笏弟の森武臣所蔵短冊の自筆を使用。

句について：「芋」「露」が秋の季語。近景に里芋の葉におりた露が、遠景には姿を正すように連なる山々が配される。その対比に、爽涼とした秋の大気が表現されている。

飯田龍太文学碑 「水澄みて四方に(耳)関ある甲斐の國」

1974（昭和49）年作 句集『山の木』所収

設立：2014（平成26）年11月11日

飯田龍太文学碑建設委員会（委員長 野口英一）が芸術の森公園に設置、山梨県に寄贈された。

設計：株式会社 丹下都市建築設計

施工：株式会社 小野石材店

石：山梨県特有の安山岩である山崎石。

筆跡：飯田家所蔵の自筆を使用。

句について：「水澄む」が秋の季語。大気が澄み、地が澄み、山稜の際立つ秋ならではの、甲斐の国のうるわしさを愛でている。

飯田蛇笏文学碑、飯田龍太文学碑の拓本の採拓を希望される方は、文学館受付までご連絡下さい。

山梨県立文学館